

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	南丹市新庁舎建設工事	階数	地上2F
建設地	京都府南丹市園部町小桜町29-1	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、22条地域	平均居住人員	220 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2021年2月25日
敷地面積	16,466 m <sup>2</sup>	作成者	㈱内藤建築事務所
建築面積	1,233 m <sup>2</sup>	確認日	2021年2月26日
延床面積	2,064 m <sup>2</sup>	確認者	㈱内藤建築事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 72%

③上記+②以外の 72%

④上記+ 72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

### LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> ・室内環境、サービス性能に配慮しており、執務者、利用者が快適に過ごせる施設となっている。 ・植栽計画、光害の抑制等、室外環境にも配慮している。 ・建物の熱負荷抑制に努めている。	<b>その他</b> 0	
<b>Q1 室内環境</b> ・昼光利用を行う。・各執務室には、十分な照度が確保されている。・建築材料には全て、F☆☆☆☆品を採用し、空気質環境に配慮している。・全館禁煙としている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・光ケーブルの設置。・リフレッシュスペースを確保。・防汚性の高い建材の採用。・重要度係数1.5とし、耐震性への配慮。・節水型便器、耐震クラスA等、設備システムの信頼性は高い。・階高、壁長さを確保し、空間のゆとりに対応。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・景観への配慮を行っている。
<b>LR1 エネルギー</b> ・高性能断熱材、複層ガラスの採用等、建物の熱負荷抑制に努めている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・自動水栓に加え、節水型便器を採用している。・リサイクル材の活用に努めている。・防水工事のプライマー等、化学物質の使用削減に努めている。・断熱材はノンフロン品を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・ガス設備設置無し等、大気汚染防止に努めている。光害抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される